

2001年第50週報告分

- 発生動向総覧 / 調査票通信
- 全数届出患者数一覧表
- 定点報告疾病集計表
- 疾病別グラフ(四類定点週報告分)
- 疾病マップ(感染性胃腸炎)
- 病原体検出報告(感染性胃腸炎)
- 年齢階級別累計表
- 保健所別累計表

トピックス

- UNAIDS -AIDS epidemic update (Dec. 2001)-

東京都結核・感染症発生動向調査企画委員会

事務局:東京都立衛生研究所疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/



（全数情報）

- ・細菌性赤痢が3件報告された。フレキシネル2 a菌が1件（推定感染地：インドネシア）、ソネ菌が2件（推定感染地：韓国、国内）検出された。国内発生例については現在調査中である。
- ・パラチフスが1件報告された。推定感染地はインドネシアである。
- ・急性ウイルス肝炎が3件報告された。いずれもB型で、推定感染経路は異性間性的接触が2件、同性間性的接触が1件である。
- ・HIV感染症が6件報告された。無症候性キャリア3件、AIDS2件、その他（肝膿瘍）1件である。推定感染経路は異性間性的接触2件、同性間性的接触4件である。
- ・ジアルジア症が2件報告された。推定感染地はフィリピンと不明（人間ドックで発見）である。
- ・梅毒が4件報告された。早期顕症梅毒が2件、晩期顕症梅毒が2件であった。
- ・破傷風が1件報告された。83歳の女性で、木の切り株（場所不明）による裂傷からの感染が推定された。患者は播種性血管内凝固症候群により死亡した。
- ・マラリアが1件報告された。熱帯熱マラリアで、推定感染地はケニアである。
（推定される感染地は医師の届出によるものです）

（定点情報）

- ・感染性胃腸炎がさらに増加している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、流行性耳下腺炎の報告も多い。マイコプラズマ肺炎が再び報告されている

（病原体情報）

- ・定点から菌株で搬入されたMRSA2株はコアグラ - ゼ 型であり、溶血性レンサ球菌2株はT - 22型、T - 25型が各1件であった。
- ・ツツガムシ病患者2名の血液からリケッチア・ツツガムシ特異抗体が検出された。
- ・脳症を伴うインフルエンザ様疾患患者の咽頭拭い液と糞便からアデノウイルスが検出されている。
- ・不明熱患者の咽頭拭い液からアデノウイルスが検出されている。
- ・散発の感染性胃腸炎患者3名の糞便からSRSV、A群ロタウイルス、サイトメガロウイルスがそれぞれ検出されている。
- ・保育所で集団発生した感染性胃腸炎患者2名の糞便からSRSVが検出されている。
- ・学校で集団発生した感染性胃腸炎の患者3名の糞便からSRSVが検出されている。
- ・不明発疹患者と気管支炎患者の咽頭拭い液からそれぞれアデノウイルス1型とアデノウイルス3型が分離されている。
- ・熱発の児童の咽頭拭い液から単純ヘルペスウイルス1型が検出されている。
- ・先天性サイトメガロウイルス感染症の新生児の咽頭拭い液、尿、糞便からサイトメガロウイルスが検出されている。
- ・胃腸炎集団発生4事例の患者の検体8件からSRSVが検出されている。

- ・多摩地区の定点から搬入された感染性胃腸炎患者4名の糞便のうち2件からSRSVが、1件からA群ロタウイルスが、1件からサルモネラO8群が検出された。
- ・保健所から搬入された血清113件中1件から梅毒特異抗体が検出された。
- ・南新宿検査・相談室などから搬入された血清201件中3件から梅毒特異抗体が検出された。
- ・保健所から搬入された血清77件中25件、南新宿検査・相談室から搬入された血清200件中52件、定点から搬入された血清9件中5件からクラミジア・トラコマチス特異抗体が検出された。
- ・定点から搬入された頸管拭い液16件中4件からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出された。
- ・定点から搬入された頸管拭い液16件中1件から淋菌遺伝子が検出された。

(その他の情報)

- ・今週のウイルス関連搬入検体は、集団発生した感染性胃腸炎と上・下気道炎によるものが多い。

調査票通信

定点医療機関からのコメントを掲載

台東

- ・4歳女児は、インフルA・B-クイック「生研」でA型、B型共に陽性でした。

中野

- ・伝染性紅斑が流行しています。
- ・近くの小学校、保育園で感染性胃腸炎が流行しています。
- ・別の小学校から咽頭結膜炎の患児が来診、他にも10名程の患児がいて、学級閉鎖とのこと。

全数届出患者数一覧表 2001年50週

分類	疾病名	東京都分（報告週）				全国分(診断週)
		47週	48週	49週	50週	50週
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	ペスト					
	マ・ルブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	コレラ			1		1
	細菌性赤痢	4	1	5	3	45
	腸チフス					
	パラチフス				1	1
	急性灰白髄炎					
	ジフテリア					
三類	腸管出血性大腸菌感染症	3				16
四類 (全数届出)	アメ - バ赤痢	1	3	2		4
	エキノкокクス症					
	黄熱					
	オウム病					
	回帰熱					
	ウイルス性肝炎（急性肝炎）	1	4		3	8
	Q熱					
	狂犬病					
	クリプトスポリジウム症					
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					
	後天性免疫不全症候群	3	6	8	6	11
	コクシジオイデス症					
	ジアルジア症		1		2	2
	腎症候性出血熱					
	髄膜炎菌性髄膜炎		1			
	先天性風疹症候群					
	炭疽					
	ツツガムシ病			3		11
	デング熱					
	日本紅斑熱					
	日本脳炎					
	乳児ボツリヌス症					
	梅毒	3	2		4	6
	破傷風				1	1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1			
	ハンタウイルス肺症候群					
	Bウイルス病					
	ブルセラ症					
	発疹チフス					
マラリア	1		1	1	1	
ライム病						
レジオネラ症					1	

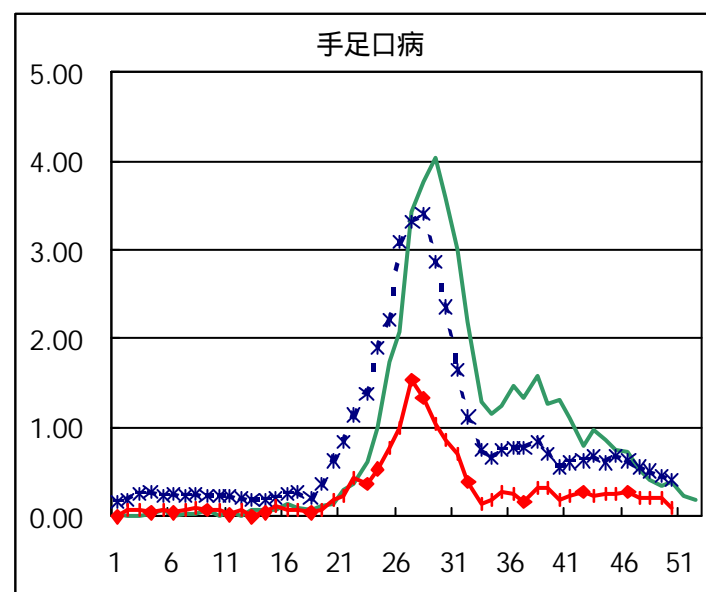
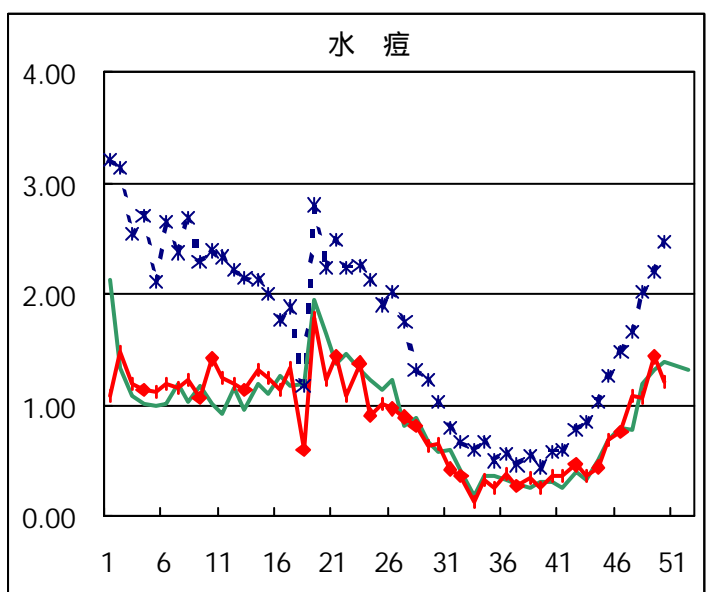
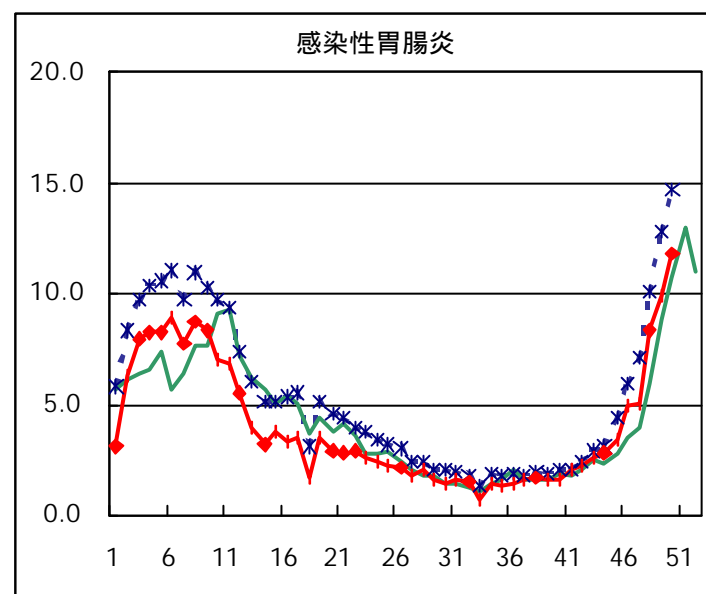
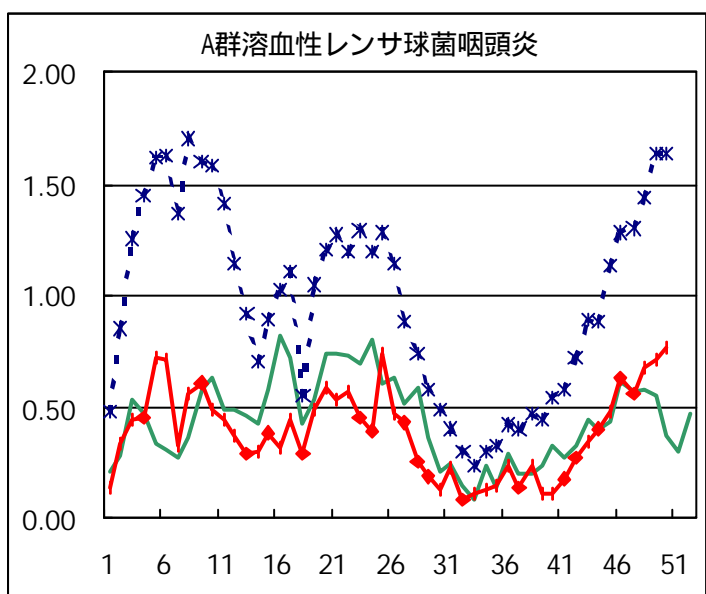
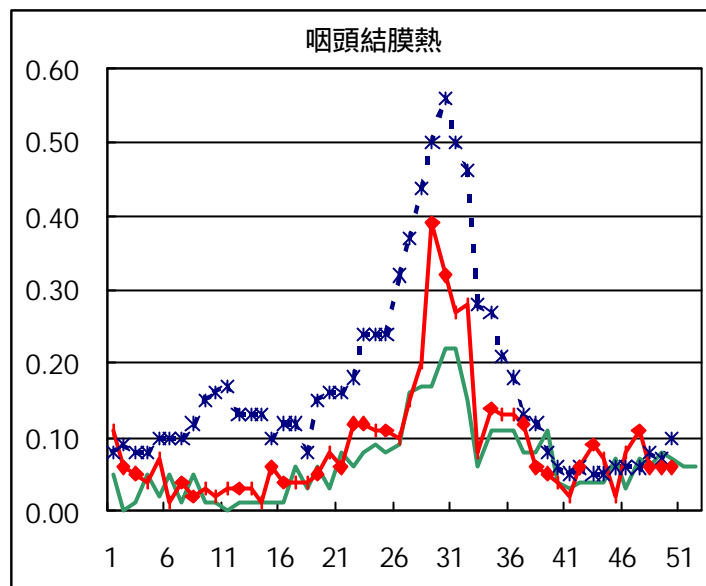
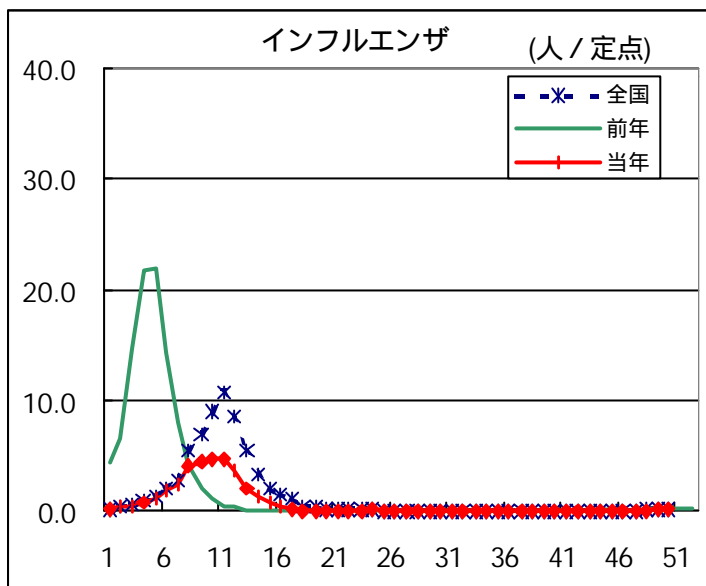
医師からの追加届出により増加することがあります(2001/12/19集計)

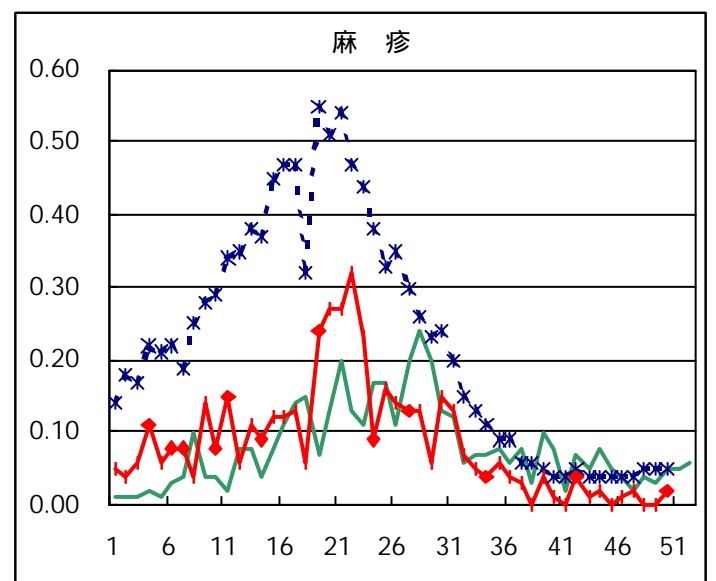
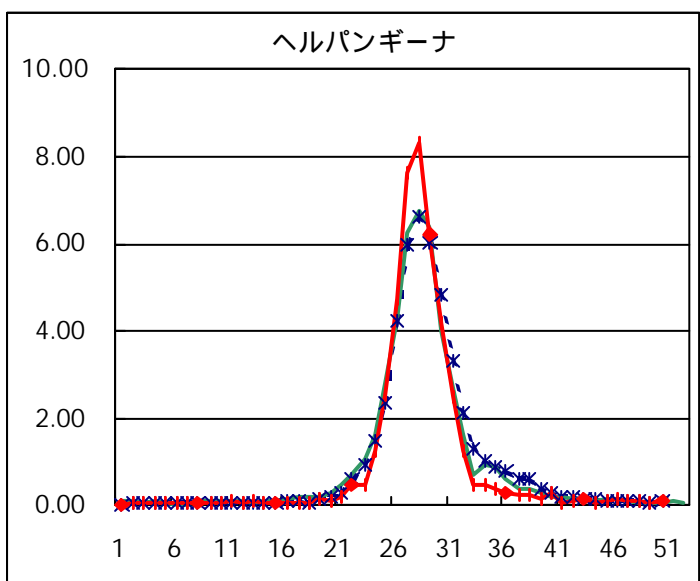
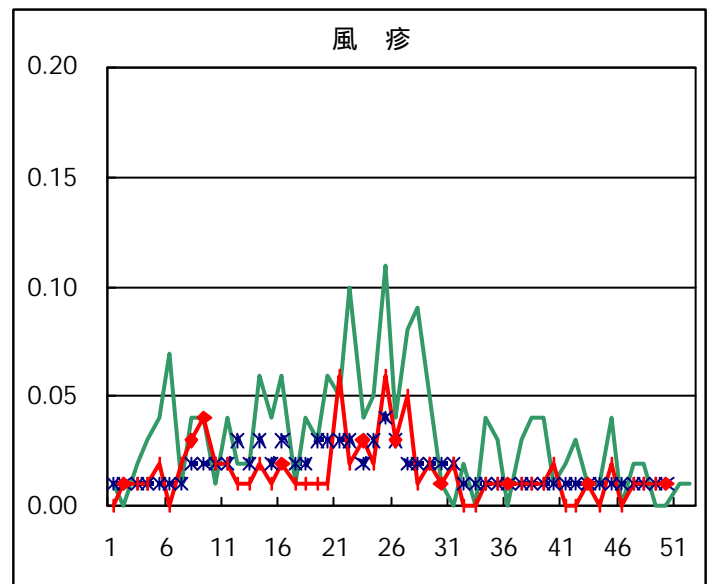
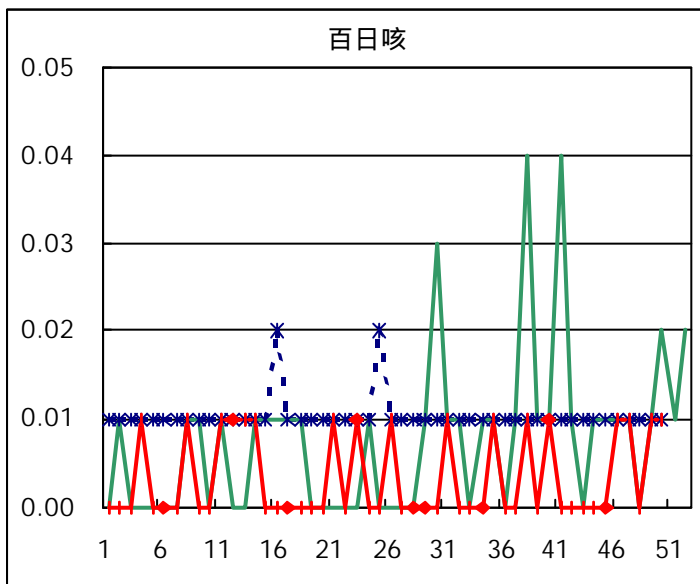
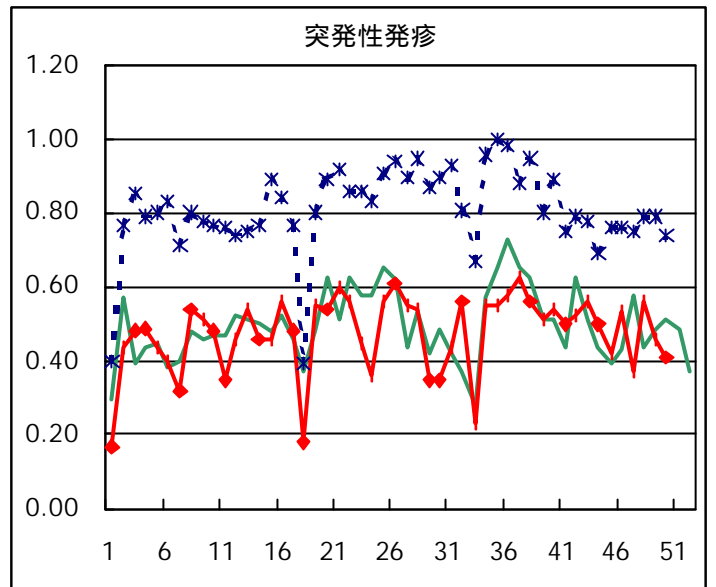
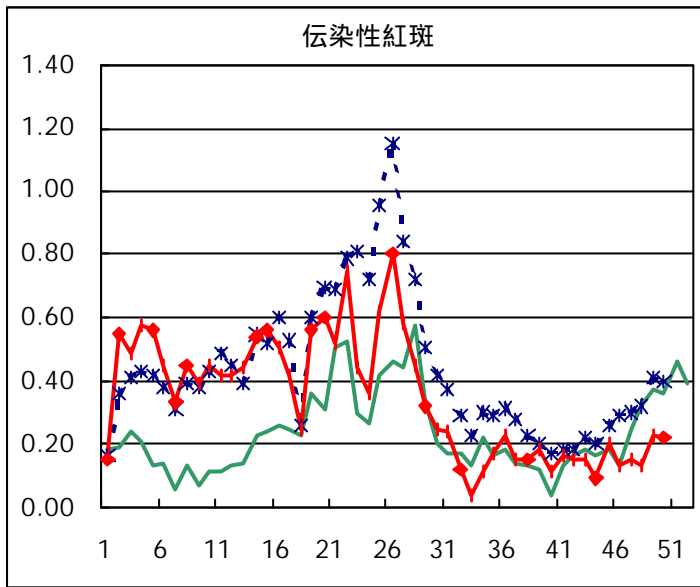
定点報告疾病集計表（男女別）

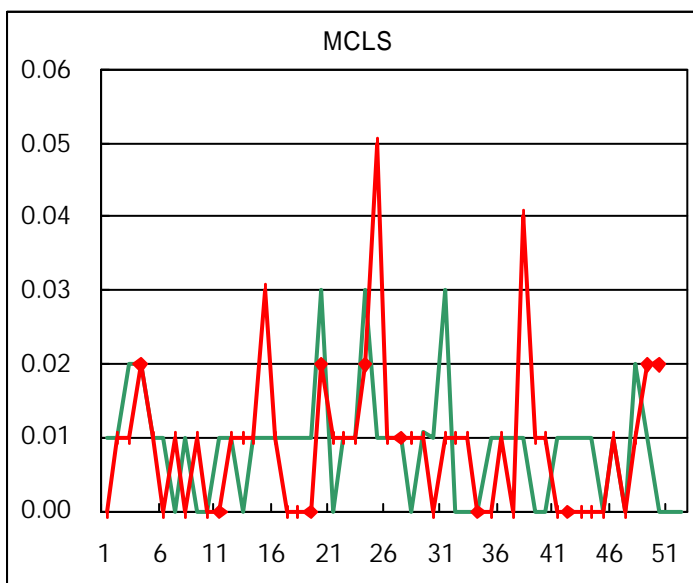
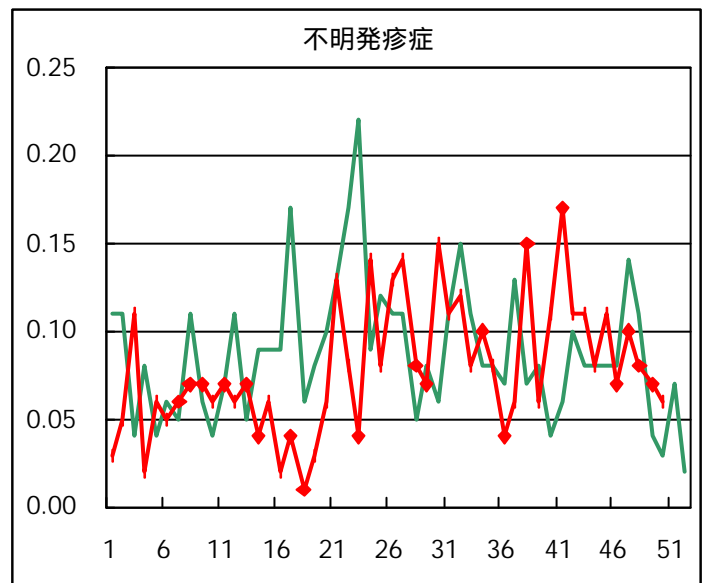
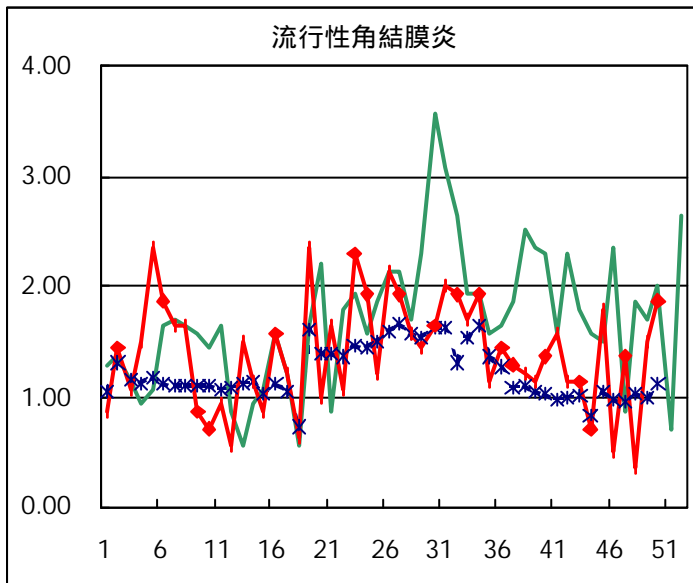
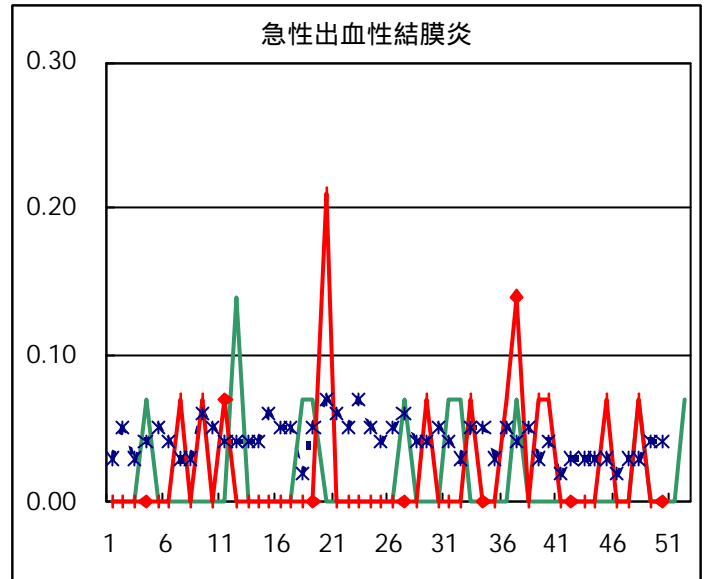
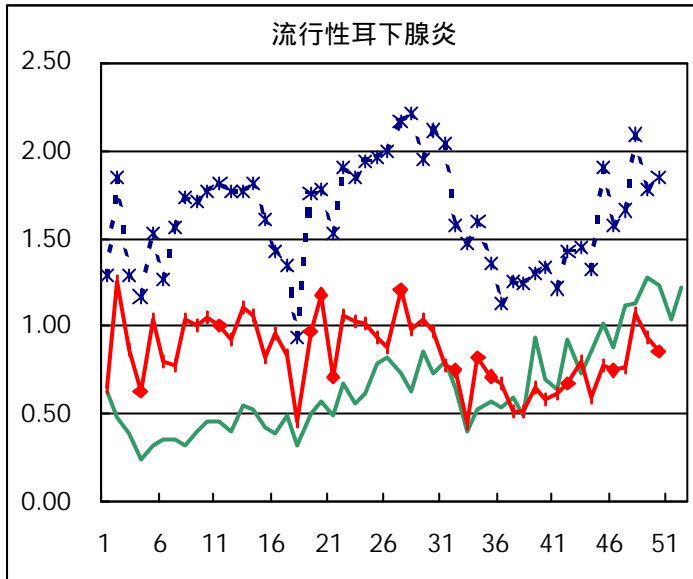
疾病名	性	2001年 週				累計
		47	48	49	50	
インフルエンザ	男	3	5	17	16	41
	女	5	6	7	10	28
咽頭結膜熱	男	6	4	6	2	18
	女	9	5	3	7	24
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	50	53	58	60	221
	女	30	42	43	50	165
感染性胃腸炎	男	375	603	739	847	2564
	女	342	573	667	823	2405
水痘	男	86	69	117	92	364
	女	68	82	87	80	317
手足口病	男	17	17	17	6	57
	女	13	12	12	8	45
伝染性紅斑	男	14	12	12	12	50
	女	8	6	21	19	54
突発性発疹	男	23	42	36	37	138
	女	30	37	29	21	117
百日咳	男			1	2	3
	女	2				2
風疹	男		1		1	2
	女	2	1	2		5
ヘルパンギーナ	男	9	5	2	4	20
	女	6	5	2	6	19
麻疹(成人以外)	男					
	女	3			3	6
流行性耳下腺炎	男	59	81	73	64	277
	女	49	72	60	57	238
不明発疹症	男	5	6	7	5	23
	女	9	5	3	4	21
M C L S	男				1	1
	女		2	3	2	7
急性出血性結膜炎	男		1			1
	女					
流行性角結膜炎	男	13	4	13	16	46
	女	6	3	8	10	27
急性脳炎（日本脳炎を除く）	男					
	女					
細菌性髄膜炎	男					
	女	1				1
無菌性髄膜炎	男		1			1
	女					
マイコプラズマ肺炎	男		1			1
	女	3	1		4	8
クラミジア肺炎（オウム病は除く）	男					
	女					
成人麻疹	男	1		2		3
	女			1		1

「累計」欄は、当週を含む過去4週分の合計を示したものです。空欄は、報告がなかったことを示しています。

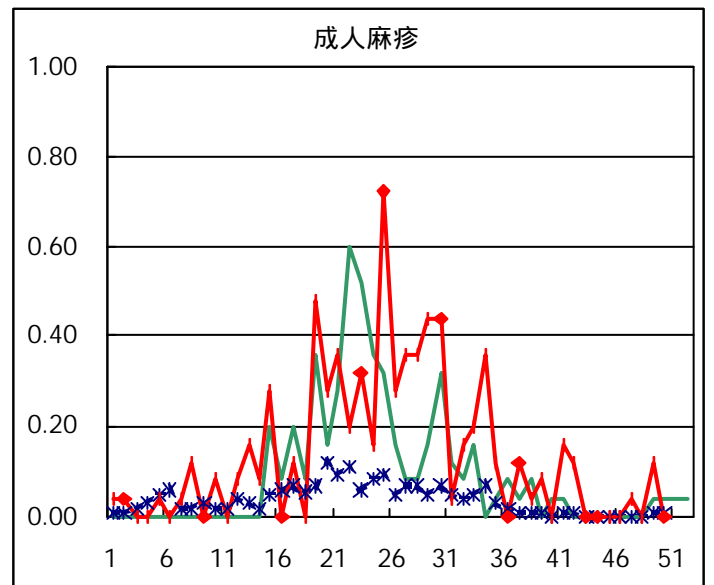
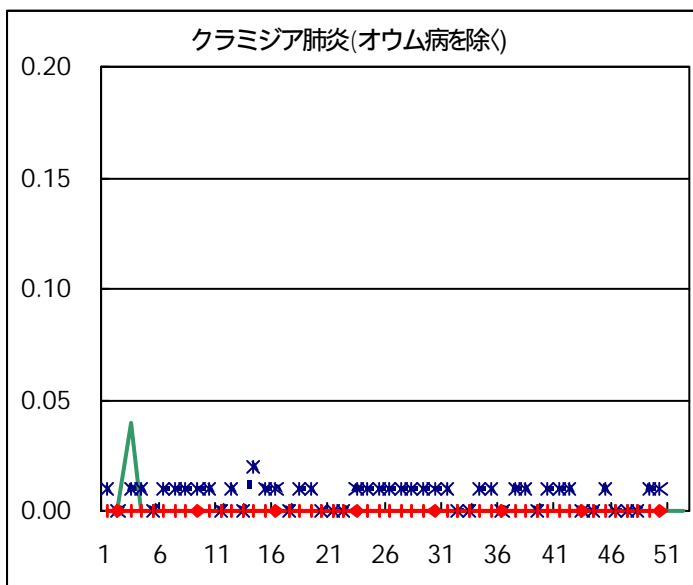
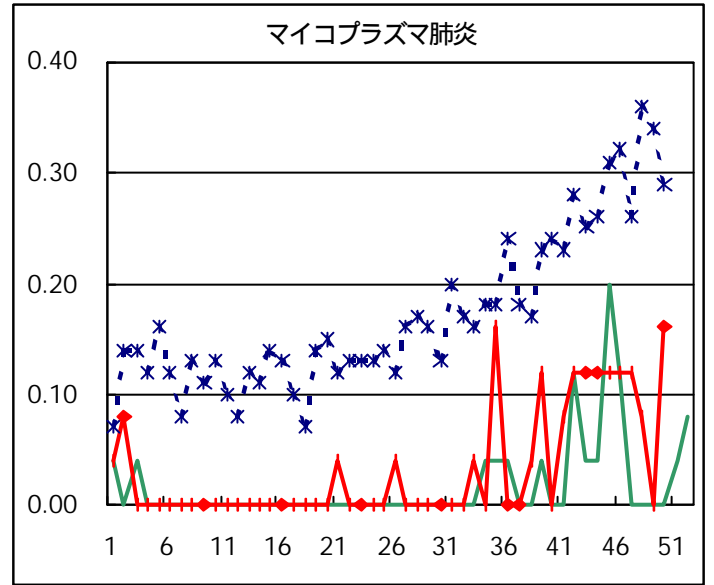
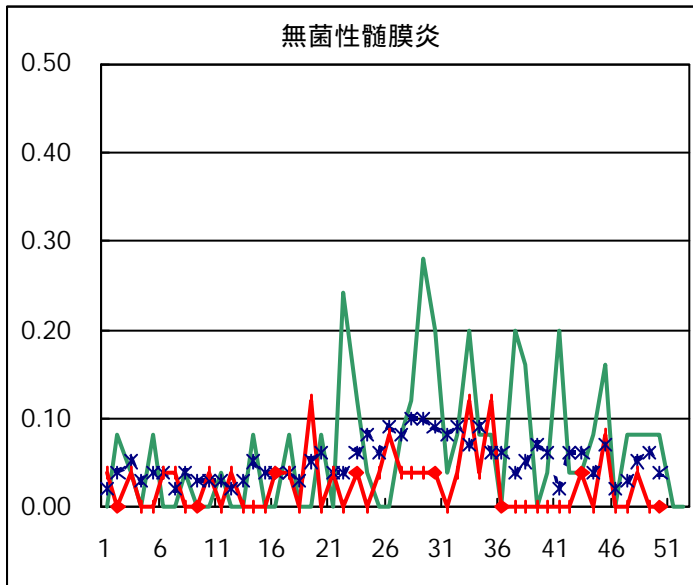
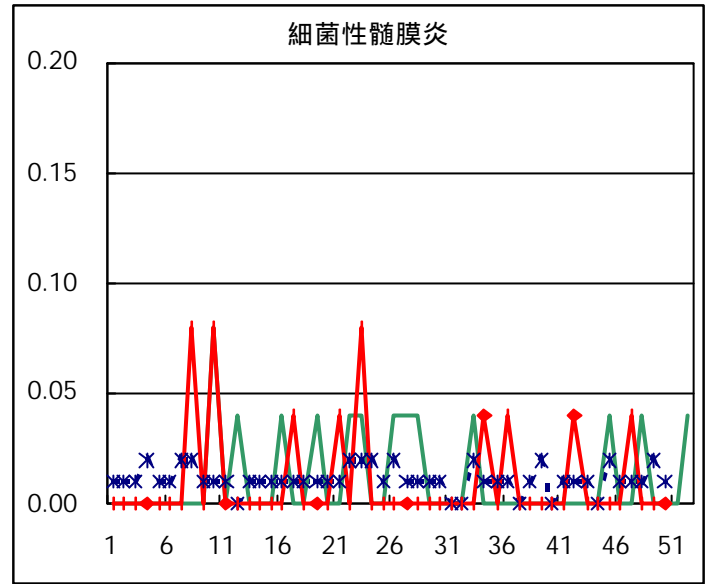
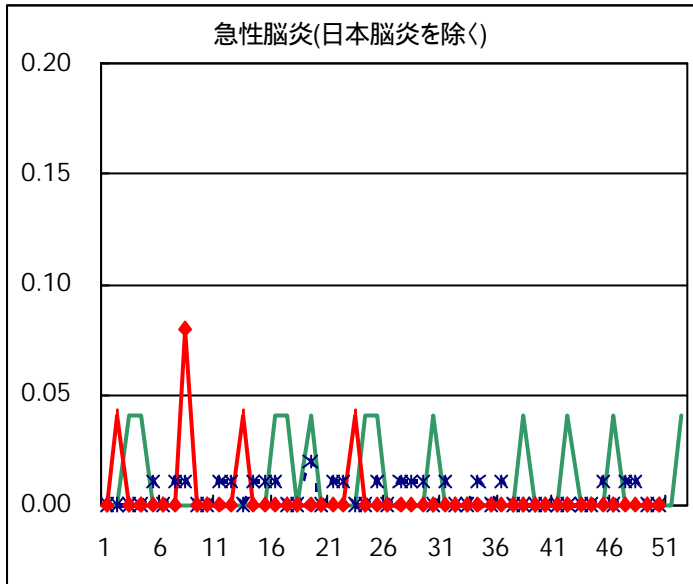
疾病別グラフ(四類定点週報告分)



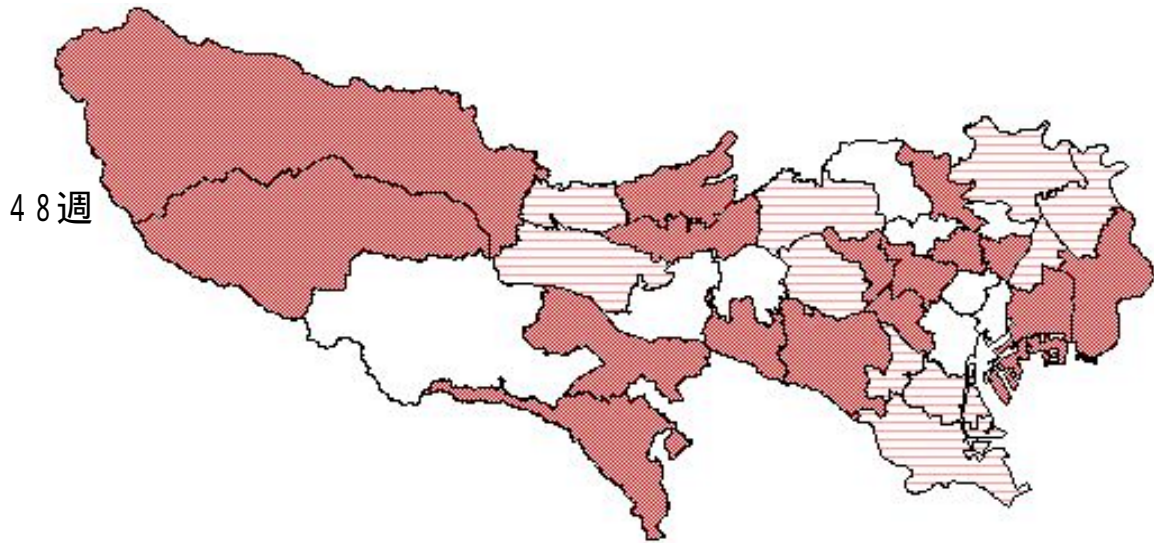




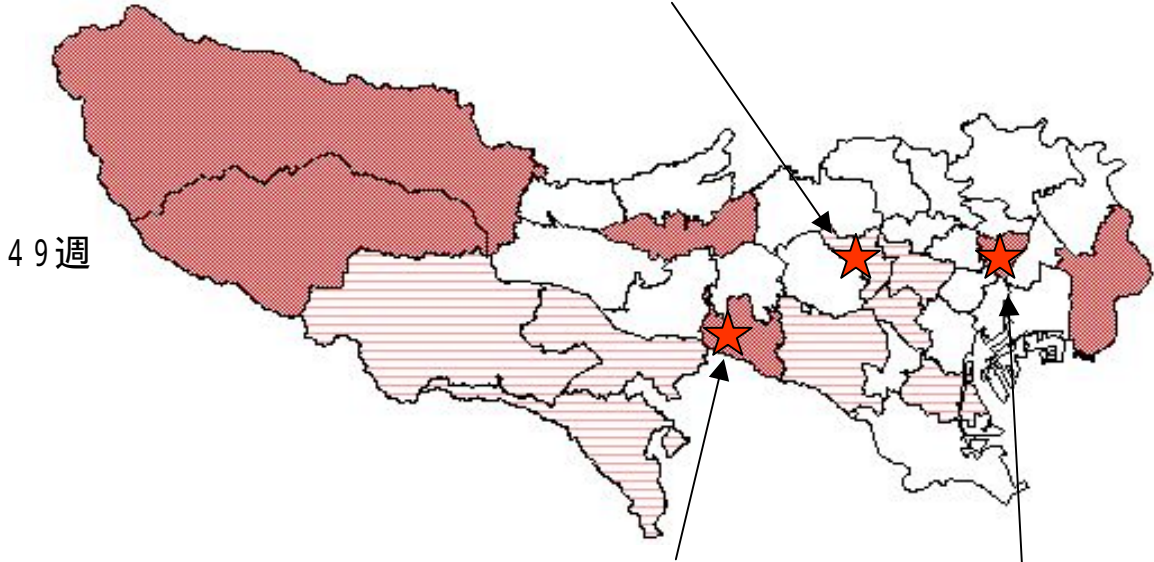
疾病別の定点医療機関数	
疾 病	医療機関数
インフルエンザ	178
急性出血性結膜炎	14
流行性角結膜炎	
急性脳炎	25
細菌性髄膜炎	
無菌性髄膜炎	
マイコプラズマ肺炎	
クラミジア肺炎	
成人麻疹	142
上記を除疾病	



東京都における感染性胃腸炎発生状況 (48週～50週の調査票通信より)

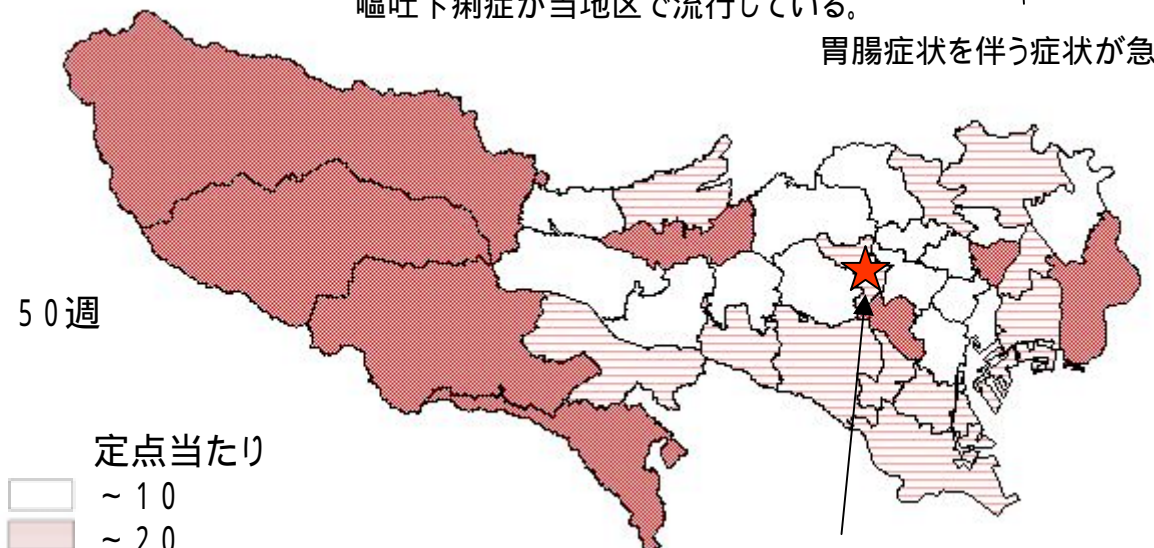


近くの小学校、保育園で感染性胃腸炎の流行あり、次々と家族内感染を起こしたケースが数多く見られる。然も年長者の方が発熱、その他全身症状が強い感じで見られる。



嘔吐下痢症が当地区で流行している。

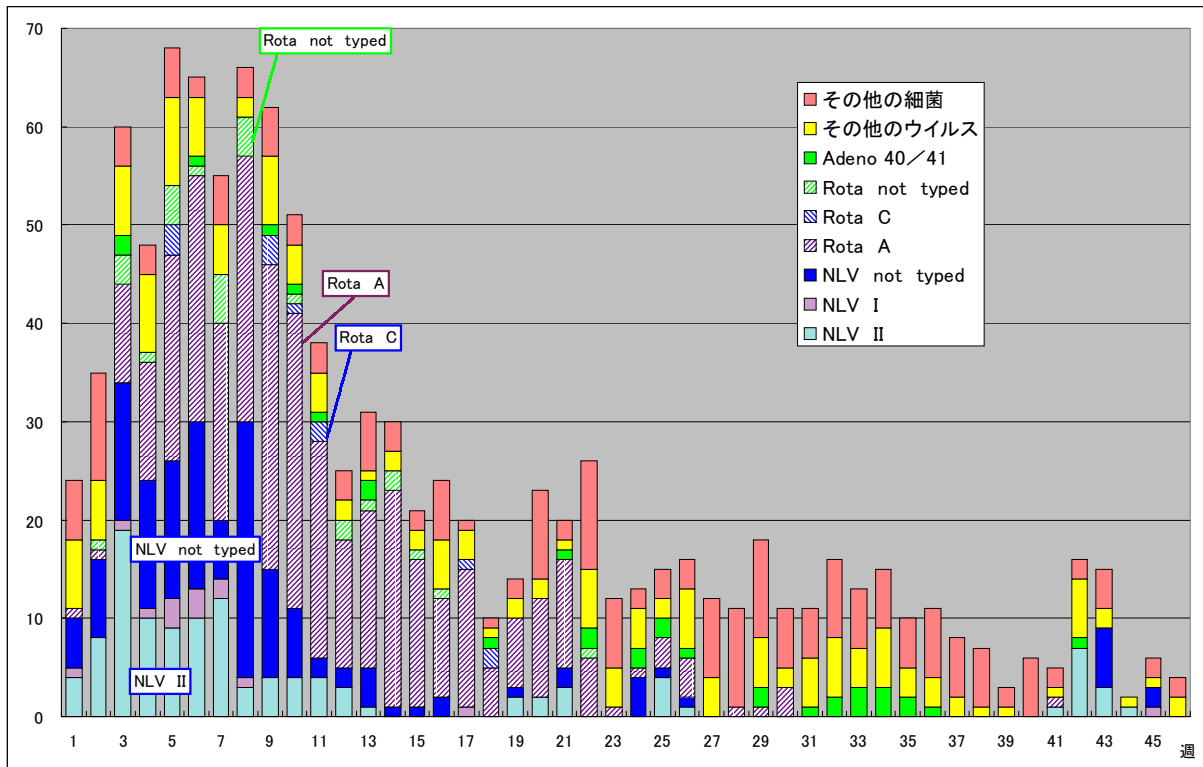
胃腸症状を伴う症状が急増しました。



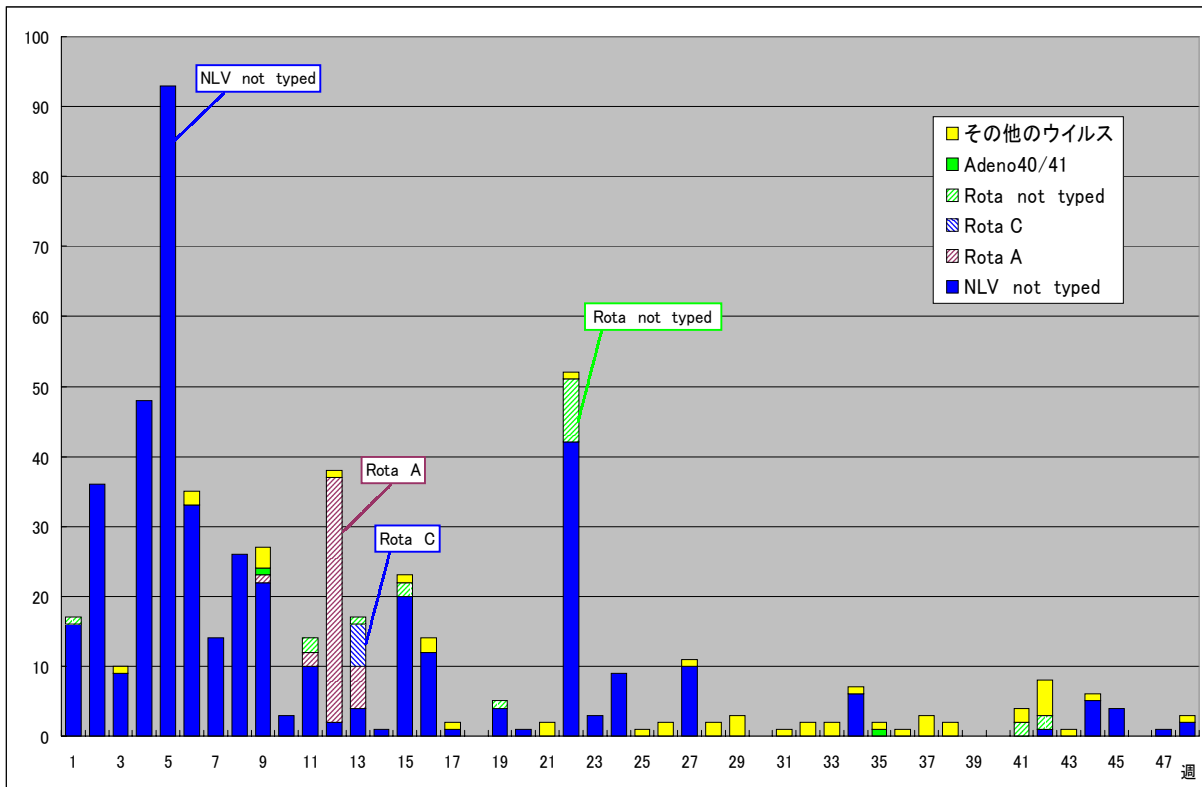
近くの小学校、保育園で感染性胃腸炎が流行しています。

病原体検出報告（感染性胃腸炎）

感染性胃腸炎患者から検出されたウイルスおよび細菌（全国報告数<個票から集計>）



感染性胃腸炎患者から検出されたウイルス（東京都）



搬入検体数：2070件<集団発生を含む>(ウイルス研究科)
 (注)NLV:Norwalk-like virus (SRSV)

年齢階級別累計表(2001年50週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS
～6ヶ月				6	4			6			1					1	
～1歳	1	1		77	5		1	35				2			1	1	
1歳	1	2	1	172	25	2	1	15	1		2	1	7			2	2
2歳	1		3	137	29	3	2	2			2		16				
3歳			9	150	28	2	2				2		8			1	
4歳	2	3	11	209	31	1	2						17		1		1
5歳			18	166	14	3	5						19				
6歳	1		16	139	11		1			1			18				
7歳	1	1	19	96	6		8				1		8		1	1	
8歳			11	78	3	3	2						4				
9歳		1	5	63	2		1						6				
10～14歳	5		8	129	4		4				1		12		1	1	
15～19歳	1		1	26	1		1						2		1		
20～29歳	3	1	8	222	9		1		1		1		4		3	2	
30～39歳	3														9		
40～49歳	3																
50～59歳	3														6		
60～69歳															2		
70～79歳															1		
80歳以上	1																
合計	26	9	110	1670	172	14	31	58	2	1	10	3	121	0	26	9	3
先週比	2	0	9	264	-32	-15	-2	-7	1	-1	6	3	-12	0	5	-1	0

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。

眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

保健所別累計表 (2001年50週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
中央			1	1	3											1		6
世田谷	7			106	10		1	7					11					142
渋谷区				88	7		1	1					3					100
池袋				1	1						3				3			8
長崎				10	1													11
荒川				11	6			1										18
足立			1	45	2								4					52
葛飾			7	39	3		8	4					11			3		75
江戸川	1		35	101	13	1	1	6		1			13				2	174
台東	1	1	5	98	11	2					2							120
目黒区		1	5	35	8	1	1						4					55
大田区			5	110	9			6			2		2		5			139
杉並				52	5	1	1	1					5					65
北区			7	53	5	1		6					4					76
板橋区			2	23	2	4					1							32
みなと	3		1	22	1		2	1					1		1			32
中野区	1	1		100	1		8						6					117
新宿区			3	60	6			1					5		11			86
品川区	3		5	71	1			2					4			1		87
千代田		1	2	10	3											2		18
練馬区	5		6	36	4		2	1			1		6					61
文京			1	16	7										2			26
墨田区				51	2			1					2					56
江東区			4	43	10			3					5		1			66

保健所別累計表 (2001年50週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
八王子				46	2			2					3					53
町田			5	58	5			3					1		1	1		74
島しょ													1					1
多摩川			2	84	5			3					2					96
秋川				45	1	1							2					49
南多摩			1	45	16	1	4	2	2		1		4				1	77
多摩立川			4	13	4							3	2					26
村山大和			1	18	3		1	1					2		1	1		28
府中小金井				11	3								2					16
狛江調布	1	5		40	2			2					2					52
三鷹武蔵野				17									1		1			19
多摩小平	4		3	64	4		1	3					4					83
多摩東村山			4	47	6	2		1					9					69

東京都合計	26	9	110	1670	172	14	31	58	2	1	10	3	121	-	26	9	3	2265
定点当り報告数	0.15	0.06	0.77	11.76	1.21	0.10	0.22	0.41	0.01	0.01	0.07	0.02	0.85	-	1.86	0.06	0.02	

<トピックス>

UNAIDS AIDS epidemic update (Dec. 2001)

国連合同 AIDS 計画は 2001 年(11 月 28 現在)の HIV/AIDS 流行に関するレポートを発表した。それによれば、2001 年末で生存している HIV/AIDS 感染者・罹患者は世界中で 4,000 万人に達し、また新たな感染者の多くが女性を含む若い世代であること、さらには彼らのほとんどが AIDS についての知識を持たないことに強い危機感を表明している。

AIDS は人類に対してもっとも破壊的な病気となり、世界全体では死因の第 4 位を占め、サハラ砂漠以南のアフリカでは最大の死因となっている。この地域では今年 1 年間で 230 万人が死亡し、地区によっては妊婦の感染率が 30%以上に達するといった危機的状況にあることを報告している。さらに、東ヨーロッパ・中央アジア地域、とりわけロシアでの感染者の急増を指摘し、また先進国でも薬物常習者や男性同性愛者の中で再び勢いを増す危険性があると警告している。アジア・太平洋地域については、大規模な対策プログラムが感染率の低下に効果を上げている例としてタイとカンボジアを紹介する一方、中国での 1990 年代の不適切な献血や薬物注射を原因とした感染者の増加を指摘している。

2001 年 6 月の国連特別総会では HIV/AIDS を抑止するための様々な措置と目標の達成を各国に求める決議がなされた。本レポートは各国政府がこの決議にしたがって、国際的な協力のもとに、対策に取り組むよう、あらためて訴えている。

(疫学情報室 荻野 周三)

HIV/AIDS の地域別流行状況(2001年末現在)

地 域	流行の開始時期	生存する成人および子供の HIV/AIDS 感染者 罹患者数	2001年中に新たに HIV/AIDSに感染・罹患した成人および子供の数	成人の感染 罹患者率 (*)	HIV感染者に占める女性の割合	成人における HIV/AIDSの主な感染経路
サハラ砂漠以南のアフリカ	70年代後半-80年代前半	28,100,000	3,400,000	8.4%	55%	異性間性行為
アフリカ中西部および北部	80年代後半	440,000	80,000	0.2%	40%	異性間性行為, 薬物注射
アジア南部および南西部	80年代後半	6,100,000	800,000	0.6%	35%	異性間性行為, 薬物注射
東アジアおよび太平洋地域	80年代後半	1,000,000	270,000	0.1%	20%	薬物注射, 異性間性行為, 男性同性間性行為
中南米	70年代後半-80年代前半	1,400,000	130,000	0.5%	30%	男性同性間性行為, 薬物注射, 異性間性行為
カリブ海地域	70年代後半-80年代前半	420,000	60,000	2.2%	50%	異性間性行為, 男性同性間性行為
東ヨーロッパおよび中央アジア	90年代前半	1,000,000	250,000	0.5%	20%	薬物注射
西ヨーロッパ	70年代後半-80年代前半	560,000	30,000	0.3%	25%	男性同性間性行為, 薬物注射
北アメリカ	70年代後半-80年代前半	940,000	45,000	0.6%	20%	男性同性間性行為, 薬物注射, 異性間性行為
オーストラリアおよびニュージーランド	70年代後半-80年代前半	15,000	500	0.1%	10%	男性同性間性行為
計		40,000,000	5,000,000	1.2%	48%	

(*) HIV/AIDS感染し、生存中の成人(15-49歳)の2001年の成人人口に占める割合

UNAIDS AIDS epidemic update (URL) http://www.unaids.org/epidemic_update/report_dec01/index.html